

「活用力」を高める学習指導の在り方（第二年次）

～ 研究協力校における実践的な取組を通して ～

福島県教育センター	主任指導主事	島貫 条司
伊達市立伊達小学校	教諭	武澤ひろみ
矢祭町立矢祭中学校	教諭	戸倉 恵美
	講師	橋本 裕司
伊達市立梁川小学校	教諭	黒澤 和美

1 研究の趣旨

学校教育法に学力の3要素が示されるとともに、学習指導要領の総則において、思考力・判断力・表現力等の育成を目指すことが示されている。また、全国学力・学習状況調査等の結果分析から、本県の学力面での課題として、思考力・判断力・表現力の育成が挙げられている。

そこで、「思考力・判断力・表現力」を「活用力」ととらえ、一年次の昨年度は、算数・数学科に絞り、研究協力校3校の実践協力を得ながら「少数教育の充実」と「授業改善」の両面から研究を進めた。

二年次となる今年度は、研究の対象を国語科、算数・数学科、理科に増やすとともに、研究協力校も9校に増やし、「授業改善」に絞って、「活用力」を高めるための授業づくりの視点や手立て等を明らかにしたいと考えた。そして、本研究から得られた知見を県内の教員に普及し、各学校の実践に生かすことができるようにすることで、児童生徒の「活用力」の育成に寄与したいと考えた。

2 研究の概要

(1) 研究協力校における授業実践を通して、「活用力」を高めるための授業改善の視点や手立てを明らかにし、具体化・一般化を図る。

- ① 事前訪問による趣旨説明
- ② 授業づくりのための検討
- ③ 授業の検証
- ④ 情報提供・情報交換

(2) 研究協力校の教員・児童生徒を対象に「活用力」に関する意識調査、学力調査を実施し、意識や学力の実態をとらえることで有効な手立てを探る。

(3) 「活用力」を高めるための取組を収集・分析し、有効性を検証する。

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ① 理論研究だけでなく、研究協力校の授業実践を通して、「活用力」を高める学習指導のポイントを確認することができた。

- ・ 身に付けさせたい力を明確にし、知識・技能等とのバランスのとれた単元計画を立てる
- ・ 問題解決的な学習過程を設定し、「思考・判断・表現の場」を位置付ける
- ・ 子どもの必要感に裏付けられた「共有」と、教師がコーディネートする「吟味」の活動を行う
- ・ 活動に必然性を感じさせ、目的意識を持たせる働きかけを行う
- ・ 支持的風土の醸成、温かい雰囲気 of 学級づくりを行う

- ② 「活用力」を高める授業づくりの視点を、16項目にまとめることができた。

(2) 今後の課題

- ① 「支持的風土」「温かい雰囲気」が大切であることが分かったが、それを醸成するために、授業の中でどのような働きかけをすればよいのかについて明らかにしていきたい。
- ② 「活用力」を高める授業づくりの「ハンドブック」を作成し各学校へ配付するとともに、広報誌、Webへの掲載を通し、研究の成果が広く県内に普及・活用されるようにしていきたい。また、本教育センターでの講座の中で、「ハンドブック」を活用するなど、研究の成果が研修に役立つようにしていきたい。